

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771100520
法人名	社会福祉法人瑞祥会
事業所名	グループホームあじさい
所在地	香川県東かがわ市引田922番地18 (電話) 0879-33-7001

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価決定日	平成19年11月28日

## 【情報提供票より】(19年 9月 13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	5人	常勤	1人、非常勤 4人、常勤換算 3.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円	その他の経費(月額)	2,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

### (4) 利用者の概要(10月 18日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.67歳	最低	75歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院、永峰歯科、県立白鳥病院、さぬき市民病院(精神科)
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、自然に恵まれ、季節感を感じることのできる静かな環境にあるが、隣接してテニスコートやあじさい公園があり、人の動きのある環境でもある。1ユニット6名の小規模な事業所のメリットを活かして、利用者一人ひとりの得意なことや興味のあることを把握し、個人の潜在能力や思いを活かしたきめ細かな支援をしている。利用者は経験豊かな管理者をはじめ、落ち着いた雰囲気職員に見守られて、家庭的な雰囲気の中で自分のペースでゆったりと生活している様子がうかがえる。ホームもゆったりとして明るく、居室はトイレや洗面台があり、畳敷きの和室で落ち着いた雰囲気である。同法人の特別養護老人ホームと隣接しているため、特別養護老人ホームの支援を受けながら、交流もして、小規模のメリットを活かしたグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の改善課題については、管理者、職員ともに認識し、工夫をして取り組んでいる。理念は明示しており、啓発については地域との交流を通じて浸透を図りつつあるが、独自の広報紙はなく、法人の広報紙にページを設ける等、啓発に工夫することが期待される。チームケア会議は、職員が少人数のため会議形態は取っていないが、ケアの間や個別に意見や課題を聞き取り、記録し、全員で共有して、計画やケアに反映させている。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 評価の意義と目的を理解しており、自己評価は、管理者が職員の意見を聞き作成し、全員に渡して点検し、課題を共有している。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問や意見等の話し合いが行われ、助言や意見、提供された情報をサービスの向上に活かしている。地域の作品展への利用者作品の出品や地区ごとの敬老会情報により、家族と参加するなど、具体的な交流が始まった事例がある。
重点項目③	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 家族の訪問が多いので、訪問時や報告時に希望等を聴くほか、運営推進会議で家族代表の意見を聴き、日々のケアや運営に反映している。また、職員が個別に聴いた希望、意見等も記録し、共有して対応している。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 散歩時や買物時に挨拶を交わしているほか、ひな祭り等の地域の行事やりんご狩りへの参加、祭りの獅子や奴の訪問など、地域との関わりがあり、知人の訪問や毎週地域のボランティアの訪問があり、地域との交流がある。また、今秋から、地域の作品展に利用者の作品を出品することが決まっており、作品作りが進んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に加え、事業所独自の具体的な理念を作りあげている。ただ、地域密着型サービスとしては、基本方針の中で「地域の中でその人らしい生活」と触れているものの、具体的な内容にまでにはなっていない。	○	当事業所では、現在、地域との交流に努めており、理念においても、利用者の地域住民としての生活の継続支援と、事業所と地域との関係性を念頭においた事業所独自の具体的な理念を、職員とともに作りあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすいところに掲示しているほか、職員は理念を常に携帯し、日々のケアの中で話し合ったり、注意するなど、生活の場で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ひな祭り等の地域の行事やりんご狩りへの参加、祭りの獅子や奴の訪問など、地域との関わりがあり、知人の訪問や毎週地域のボランティアの訪問等があり、地域との関わりに努めている。また、今秋から、地域の作品展に利用者の作品を出品することが決まっており、作品作りが進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と目的は理解しており、自己評価は管理者から職員に持ちかけて、全員で点検して課題を共有している。外部評価の課題についても、職員もともに認識して、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問や意見等の話し合いが行われ、助言や意見をサービスの向上に活かしている。地域の作品展への出品や敬老会など、具体的な交流が始まった事例がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議が意見交換や助言、情報提供などの機会となっており、運営の参考やサービスの向上に活かしている。しかし、会議以外には、あまり話し合いの機会も持たれていない。	○	運営推進会議にとどまらず、事業所から現場の実情や取り組みを伝え、積極的に連携を深めていくことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多いので、訪問時に、日々の様子や体調の変化等を報告している。訪問の少ない家族へは電話で報告し、希望などを聴いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や報告時に希望等を聴き、職員が聴いた意見等を記録し、反映している。他にも、運営推進会議で家族代表の意見を聴くほか、苦情受付担当者、第三者委員、苦情箱の設置等、意見等を出すための機会は設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は、最小限に抑える努力をしている。異動する職員のほとんどが、隣接の特別養護老人ホームからの異動のため、異動前から事業所を訪問しており、馴染みの関係が作られるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修として、隣接の特別養護老人ホームの研修会に参加しているほか、日々の取り組みの中で、経験豊かな管理者から助言する等、トレーニングをしている。ただ、管理者を除く職員が、外部研修を受講する機会は少なく、計画的な研修受講には至っていない。	○	限られた職員体制の中ではあるが、実務に支障がないよう工夫しながら、計画的に、なるべく多くの職員に、法人内外の研修の受講機会が作られることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の同業者との交流や管理者の他グループホームへの訪問はあったが、他法人のグループホームとの交流や連携には、まだ至っていない。	○	他グループホームとの相互訪問や勉強会などの交流を通じて、互いの意見や経験を、サービスの向上に活かす取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や職員の馴染みながら家族等と相談しながら工夫している	事前に、本人や家族に施設を見学してもらったり、職員が家庭を訪問して、ホームの雰囲気や職員に馴染んでから入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に暮らす仲間として、本人の思いや生きがいに共感し、理解している。日々の暮らしの中で、一緒に作業をしたり、時には昔のことを教えてもらったりしながら、ともに楽しく生活している様子がうかがえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人に今までの暮らし方や暮らし方の希望を聴いたり、日々の会話や表情、行動などから、本人の思いや意向などを把握し、記録して、介護計画に活かしている。また、分かりやすい利用者アンケート等を工夫して、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望を聴き、職員の意見や気づきを反映して、個別具体的な介護計画を作成している。職員数も少ないため、ケア会議という形は取っていないが、職員一人ひとりの意見を聞き、協議しながら作成するよう工夫をして、個別ケアを重視した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて問題点を把握し、見直しを行っているほか、本人の状態に変化が生じた場合は、本人や家族、関係者と話し合い、随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人が実施する事業を除けば、事業所独自で指定を受けて実施している事業はないが、特別養護老人ホームでのリハビリの通院等、必要に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医の往診や家族同伴による受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応について話し合いを行い、早い段階から方針を確認し、共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけや入室時の声かけ等によく配慮しており、職員から利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや対応はない。また、記録等の取り扱いについても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな事業所スケジュールはあるが、事業所や職員のペースではなく、一人ひとりと向かい合って、本人のペースに合わせた支援を行っている。利用者は、一人ひとり自分の思いのまま、ゆったりと自由に生活している様子がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら楽しく食事をし、一人ひとりの力に合わせ、準備や片付けなどを一緒にしている。献立は、隣接の特別養護老人ホームの栄養士が立てているが、その中で工夫をしたり、好みの味つけにする等をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後の時間帯にゆっくりと入浴をしている。入浴の順序は、利用者の希望や都合により、自然と決まっているようである。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なことや興味のあることを把握し、個人の手や興味を活かした支援をしている。例えば、俳句を作る人、編み物をする人、貼り絵が得意な人、花の水やり等、一人ひとりが役割や楽しみごとで力を発揮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前に公園があり、天気がよければ、毎日のように散歩に出かけている。また、季節ごとに外出をしたり、希望があれば買物に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしておらず、開放的である。外出癖のある人には見守りに対応しており、徘徊には、職員と一緒に外出して対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の特別養護老人ホームと合同で、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、消火器や避難経路の確保もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は常に把握、記録しており、水分摂取を促す等、一人ひとりの状態に応じた適切な支援を行っている。栄養士による献立作成により、栄養バランスやカロリーの管理ができており、本人の嚥下能力に応じて、刻み食などを工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は自然採光で明るく、光の強い時間帯はレースのカーテンでさえぎる等、工夫し、玄関や居間、廊下は季節の身近な花で飾られ、季節感を取り入れている。また、利用者作の俳句や貼り絵など、親しみのある共有空間となっている。また、畳のコーナーは、冬はこたつのコーナーとなり、利用者の団らんの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んだり、家族の写真や自分の作品などを飾り、各人がそれぞれに居心地よく過ごせる居室となっている。居室は畳の部屋であり、利用者の今までの生活の延長として、落ち着ける居室である。		